

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期
専門	看護学概論 I	1	15	1 年次 ・ 1 学期
担当講師	専任教員 (病院での看護経験あり)			
授業概要	看護の基本となる概念 (人間・健康・環境・看護・生活) を土台とし、看護とは何かについて考える。実践科学としての看護、看護の役割、看護理論を学びながら、看護の理解と対象への関心を深める。さらに保健医療福祉活動における看護の特徴、専門職業人としての看護師について学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学の概念を明確にし、看護学の意義、必要性、看護実践の理論についての基礎を学ぶ。</li> <li>2. 看護の対象である人間を健康と生活環境との関わりの中で理解し、その人に応じた看護の必要性を学ぶ。</li> </ol>			
回数	授業内容			担当者
第 1 回	1. 看護について考える			
第 2 回	1) 学問としての看護 ・ 職業としての看護 ・ 患者中心の看護			
第 3 回	2) 看護の対象			
	3) 看護とは何か (看護の目的)			
第 4 回	2. 人間について考える			
第 5 回	1) 人間とは何か			
	2) 人間の共通性と個別性			
	3) 基本的看護の構成要素			
第 6 回	3. 看護の役割と機能の理解			
	1) 法的・倫理的責任			
	2) チーム医療における連携と協働			
	3) 患者の自立と支援			
	4) 看護が機能する場			
第 7 回	4. 安全・安楽の追求			
	1) 医療における安全			
	2) 医療における安楽			
	5. 専門職としての看護			
第 8 回	6. 認定試験			
自己学習 関連科目	ナイチンゲール「看護覚え書」を読み、授業に臨む。 ヘンダーソン：「看護の基本となるもの」を読み、主旨をまとめる。 関連科目：健康論 I、看護学概論 II、基礎看護技術 I～VII			
テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学 1 看護学概論 (メヂカルフレンド社) フローレンス・ナイチンゲール：「看護覚え書」－看護であること看護でないこと－ (現代社) ヘンダーソン：看護の基本となるもの (日本看護協会出版会)			
評価方法	筆記試験：50%、課題レポート等：50%			

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期
専門	看護学概論Ⅱ	1	15	1年次 ・ 2学期
担当講師	専任教員 (病院での看護経験あり)			
授業概要	看護の歴史から人々の尊厳を守り生活を支えてきた看護の本質について理解を深める。看護専門職業人として看護の現場にある倫理的課題に気づき行動するための看護倫理の基本的知識を学ぶ。看護研究の必要性とアドボケートとしての看護者の役割を理解し、リサーチマインドを育み、3年次の「看護の実践Ⅳ」(ケーススタディ)に繋げる。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の原点と職業としての看護の成り立ちについて学ぶ</li> <li>2. 看護倫理の基本的知識を学び、自己の看護実践から倫理的課題について考える</li> <li>3. 根拠に基づく看護実践のために、看護研究の重要性を理解する</li> </ol>			
回数	授業内容	担当者		
第1回	1. 看護の歴史			
第2回	1) 看護の原点と職業としての看護 2) 戦後から現在まで			
第3回	2. 看護倫理の基礎知識			
第4回	1) 倫理学の基本的な考え方			
第5回	2) 生命倫理の4原則			
第6回	3) 看護実践上の倫理的概念			
第7回	4) 看護師の倫理			
第8回	5) 看護職の倫理綱領			
第9回	6) 倫理的問題のアプローチ			
第10回	3. 看護研究の基礎			
第11回	1) 看護研究の必要性			
第12回	2) 看護研究における倫理			
第13回	認定試験			
自己学習 関連科目	関連科目：倫理学、看護学概論Ⅰ			
テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学Ⅰ 看護学概論 (メヂカルフレンド社) 系統看護学講座 看護倫理 (医学書院)			
参考図書	ナイチンゲール伝 図説 看護覚え書とともに 医学書院			
評価方法	筆記試験：60%、課題レポート等：40%			
備考	レポート課題については、後日詳細を提示する。			

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期
専門	基礎看護技術 I	1	30	1 年次 ・ 1 学期
担当講師	専任教員 (病院での看護経験あり)			
授業概要	<p>看護師が行う看護行為の包括的概念である看護技術についての理解を深める。</p> <p>すべての看護実践の基盤となる、対象の理解と相互の関係成立に欠かせないコミュニケーション技術、感染予防の技術について講義・演習を通して学習する。また、人間の生活行動に大きく影響を与える環境について、人間と環境との関係や療養環境の調整の方法を、講義・演習を通して学習する。</p>			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術の特徴、基本原則を理解する。</li> <li>2. 人間のコミュニケーションは「意思を伝え他者とわかりあう」ことを理解する。</li> <li>3. コミュニケーション技術を用いて看護の目的を達成していくことの重要性を理解する</li> <li>4. 感染予防のための援助技術を習得する。</li> <li>5. 人間と環境の関係と生活に影響を与える環境の構成要素について理解する。</li> <li>6. 療養環境を整えるための技術を習得する。</li> </ol>			
回数	授業内容			担当者
第 1 回 ～3 回	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護を実践するために必要な技術                             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人間の生活行動とは</li> <li>2) 基礎看護技術とは何か</li> </ol> </li> <li>2. 良好な人間関係づくりに必要な技術                             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 話すこと、聞くことの意義</li> <li>2) 声を出す、聞く、言葉を認識するメカニズム</li> <li>3) 関係構築のためのコミュニケーションの基本</li> <li>4) 看護の対象を理解するためのコミュニケーション技術</li> <li>5) 話すこと、聞くことが困難な人の状況と援助</li> </ol> </li> </ol>			第 1 回 ～3 回
第 4 回 ～14 回	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 外敵から身を守る技術                             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 感染予防の意義と方法</li> <li>2) 感染症の成立過程と要素</li> <li>3) 感染症を予防するためのプロセス                                     <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 微生物を伝播させないための看護技術 (スタンダードプリコーション、感染経路別予防策)</li> <li>(2) 感染源を死滅・滅菌させるための看護技術 (手洗い、消毒、滅菌法、無菌操作)</li> <li>(3) 感染性廃棄物の取り扱い</li> <li>(4) 針刺し・切創の防止</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>4. 環境を整えるための技術                             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 環境とは</li> </ol> </li> </ol>			第 4 回 ～14 回

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 環境と人間の関係</li> <li>(2) 環境の構成要素</li> <li>2) 療養環境の調整の意義と調整方法             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 快適な療養環境を整えるための視点</li> <li>(2) 快適な療養環境の条件と環境調整の必要性</li> <li>(3) 崩れにくく快適なベッドメイキング                 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 基本的なベッドメイキング (クローズドベッド・オープンベッド)</li> <li>② 臥床患者のリネン交換</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>5. 技術試験 (1h)</li> <li>6. 認定試験 (1h)</li> </ul>	第 15 回
自己学習 関連科目	<p>事前に学習内容に関して文献を調べておく。技術演習は、事前に講義資料・教科書で技術内容を復習し望むこと。技術の自己練習は主体的に行い、反復練習を行うこと</p> <p>関連科目：人間関係論Ⅰ、心理学、ホスピタリティ論、解剖生理学Ⅰ～Ⅲ、看護学概論Ⅰ、地域、在宅看護論、基礎看護技術Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ</p>	
テキスト	<p>新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社            新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社</p>	
参考図書	<p>看護における形態機能学 (日本看護協会出版会)、看護技術プラクティス (学研)</p>	
評価方法	<p>筆記試験：60% (1～3回：15%、4～14回：45%)、技術試験：40%</p>	

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期
専門	基礎看護技術Ⅱ	1	30	1年次 ・ 1学期
担当講師	専任教員 (病院での看護経験あり)			
授業概要	対象の健康状態を評価するために身体の状態を捉え、判断するフィジカルアセスメントについての思考と適切にからだの状態を把握する方法について学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の健康状態を捉えるための基礎的フィジカルアセスメントを理解する。</li> <li>2. 対象の健康状態を判断するためのフィジカルイグザミネーションを習得する。</li> </ol>			
回数	授業内容	担当者		
第1回 第2回 ～6回 第7回 ～12回 第13回 第14回 第15回	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護におけるヘルスアセスメント</li> <li>2. フィジカルアセスメントの基本               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 体表解剖とフィジカルアセスメント</li> <li>2) フィジカルアセスメントにおける基本技術</li> <li>3) 一般状態のアセスメント①：バイタルサイン</li> <li>4) 一般状態のアセスメント②：身体計測</li> </ol> </li> <li>3. 系統的なフィジカルアセスメントの実際               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 体表面のアセスメント</li> <li>2) 呼吸器系のアセスメント</li> <li>3) 循環器系のアセスメント</li> <li>4) 腹部・消化器系のアセスメント</li> <li>5) 感覚系のアセスメント</li> <li>6) 脳神経系のアセスメント</li> <li>7) 姿勢保持・運動系 (脊椎・小脳反射) のアセスメント</li> <li>8) 呼吸・循環を整える援助 (体温管理・保温の援助)</li> </ol> </li> <li>4. 心理的・社会的状態のアセスメント</li> <li>5. セルフケア能力のアセスメント</li> <li>6. 技術試験：バイタルサイン (1h)</li> <li>7. 認定試験・まとめ (1h)</li> </ol>			
自己学習 関連科目	関連する解剖生理について学習してから授業に臨んでください。技術は各自練習を繰り返し、その技術高めること 関連科目：解剖生理学Ⅰ～Ⅲ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ			
テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 熊谷たまき他監修 看護がみえる フィジカルアセスメント MEDIC MEDIA			
参考図書	山内豊明 フィジカルアセスメントガイドブック (医学書院) 看護技術 プラクティス (学習研究社)			
評価方法	筆記試験及びレポート課題等：60%、技術試験：40%			





独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期
専門	基礎看護技術V	1	30	2年次 ・ 2学期
担当講師	専任教員 (病院での看護経験あり)			
授業概要	予約時の看護師の役割を踏まえ、予約方法の実際について既習学習を活用しながら演習を通して学ぶ。また、県査における看護師の役割をふまえ、採血検査のための静脈内採血の実際について演習を通して学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診療 (治療・検査) における看護師の役割が理解できる。</li> <li>2. 与薬の種類とその特徴を理解し、確実に与薬する基本技術を習得できる。</li> <li>3. 検査における看護師の役割を理解し、静脈血採血ができる。</li> </ol>			
回数	授業内容	担当者		
第1回	1. 検査時の看護技術 1) 検査の概念と看護師の役割 2) 検査の種類と方法 3) 採血の方法	第1回 ～4回  第5回 ～14回  第15回		
第2回	2. 簡易血糖測定の方法 (演習)			
第3回	3. 静脈血採血 (演習)			
～4回				
第5回	4. 与薬の看護 1) 与薬における看護師の役割 2) 薬剤の種類と取り扱い 3) 与薬方法と効果の観察 4) 与薬の副作用(有害事象)の観察 5) 経口与薬法の援助 6) 与薬の実際			
第6回	5. 外用薬の皮膚・粘膜適応 1) 口腔内与薬法 2) 直腸内与薬法 3) 塗布・塗擦法・貼付 4) 薬液噴霧法 5) その他 (腔剤・点眼法)			
第7回	6. 与薬法の実際 演習 (直腸内与薬法・グリセリン浣腸)			
第8回	7. 注射薬による与薬の援助 1) 目的・適応 2) 注射の種類 3) 注射法の使用器具と取り扱い 4) 注射薬 5) 注射薬の準備と実際			
第9回	8. 注射薬の準備と実際 (演習)			
第10回	9. 皮下注射 (演習)			
第11回	10. 筋肉内注射 (演習)			
第12回	11. 静脈内注射・点滴静脈内注射 (演習)			
第13回	12. 点滴静脈内注射をしている患者の看護			
第14回	13. 輸血時の看護・注射法に使用するME機器			
第15回	静脈血採血 (技術チェック 45分) 認定試験 (45分)			
自己学習 関連科目	既習内容の解剖生理学・薬理学は復習して授業に臨むこと。 関連科目：基礎看護技術Ⅰ、看護の実践Ⅲ、成人援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、小児援助論、			
テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学②③ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (メヂカルフレンド社)			
参考図書	看護につながる形態機能学 メヂカルフレンド社 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 医学情報科学研究所			
評価方法	筆記試験及びレポート課題等：(1～4回：30%、5～14回：70%)			



独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期
専門	基礎看護技術VI	1	30	2年次 ・ 1学期
担当講師	専任教員 (病院での看護経験あり)			
授業概要	生きているための生活行動を支える技術として呼吸・循環を整える診療の補助技術と救命処置技術、生きていくための生活行動を支える技術として、食事・排泄行動に関する診療の補助技術について、講義・演習を通して学習する。			
授業目標	1. 呼吸・循環を整える診療の補助技術の適応を理解し、その方法を習得する。 2. 救命処置技術の適応を理解し、その方法を習得する。 3. 食事・排泄行動に関する診療の補助技術の適応を理解し、その方法を習得する。			
回数	授業内容	担当者		
第1回	1. 呼吸に関する支援技術	第1回 ～9回		
第2回	1) 効果的に排痰を促す援助技術			
第3回	(1) 気道内加湿 (2) 体位ドレナージ (3) スクイーミング			
第4回	2) 一時的吸引の適応とその具体的方法			
第5回	(1) 口腔内吸引・鼻腔吸引 (2) 気管内吸引			
第6回	3) 酸素吸入の適応とその具体的方法			
第7回	(1) 酸素吸入法の実施 (2) 酸素ポンペの操作			
第8回	2. 救命処置技術			
第9回	1) 生命危機状態のアセスメント			
第10回	2) 心肺蘇生の方法：一次救命処置 BLS AED	第10回 ～14回		
第11回	3) 包帯法、止血法			
第12回	3. 食事に関する診療の補助技術			
第13回	1) 経鼻胃チューブの挿入・固定・確認			
第14回	2) 経鼻胃チューブからの流動食の注入			
第15回	3) 経管栄養法の観察			
第15回	4. 排泄に関する診療の補助技術	第15回		
第15回	1) 一時的導尿			
第15回	2) 膀胱留置カテーテル挿入患者の観察			
第15回	3) 膀胱留置カテーテル挿入患者のカテーテル固定・管理・感染予防			
第15回	5. 一時的導尿 (技術試験 30分) 認定試験 (筆記試験 60分)			
自己学習 関連科目	事前に学習内容に関して文献を用いて調べておく 技術チェックは既習の1年次無菌操作を用いた技術となる。事前の復習・解剖生理学を踏まえ、イメージしながら繰り返し練習することが求められる。 関連科目：成人援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ			
テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社			
評価方法	筆記試験：60% (1～9回：40%、10～14回：20%)、技術試験：(40%)			

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期
専門	基礎看護技術Ⅶ	1	15	1年次 ・ 2学期
担当講師	専任教員 (病院での看護経験あり)			
授業概要	看護は、対象者の現状や今起きている健康に関わる問題の原因を捉え、今後起こりうる問題も予測しながら、対象に合った看護支援を導き出し実施していく。その過程の中で、問題解決思考過程を用いて看護を展開していくことは有効である。そこで科学的根拠に基づき“対象を適切に捉え、看護上の問題点を導き、看護によって望ましい姿に近づける計画を立案し、実施・評価する”という、一連の看護過程の展開技術を学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程の目的と意義が理解できる。</li> <li>2. 対象の現状に応じた看護を導くために看護を展開する過程がわかる。</li> <li>3. 事例を通して、看護過程の展開の一連の過程を実践できる。</li> </ol>			
回数	授業内容	担当者		
第1回	1.看護過程とは 1) 看護過程の目的・意義 2) 看護過程の基盤となる考え方			
第2回	2. 看護過程の展開技術			
第3回	1) 看護過程の構成要素とプロセス 2) アセスメント			
第4回	3) 看護上の問題の特定と優先順位の決定			
第5回	4) 看護計 (1) 看護目標の設定 (2) 計画 (具体策) の立案			
第6回	5) 実施・評価			
第7回	3. 看護診断とは 4. 看護記録			
第8回	5. 認定試験 (45分)			
自己学習 関連科目	事例展開のために、事例の特徴的な身体機能や生理、生活や発達に関することを学習する。 関連科目：『症候治療論Ⅰ～Ⅳ』『症候各論Ⅰ～Ⅴ』『薬理学』			
テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 看護が見える vol.4 看護過程の展開 MEDIC MEDIA			
参考図書	NANDA-Ⅰ看護診断. 定義と分類 2021-2023 (医学書院)			
評価方法	筆記試験：60%、レポート課題等：40%			

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期
専門	健康教育論	1	15	2年次 ・ 1学期
担当講師	専任教員（病院での看護経験あり）			
授業概要	<p>教育」「指導」の本来の意味合いを知り、その上で具体的な集団・個人に対する指導方法について理解する。さらに実習で活用できる健康教育を学習するために、実際の健康教育の対象者や患者体験を通して、「わかる」「できる」とはどういうことかを考え、対象者の目的を達成するための対象者に適した方法を考案する。</p>			
授業目標	<p>5. 「教育」「指導」の意味を理解する。                      6. 健康を維持するための教育の方法を理解する。                      7. 健康行動理論を理解し、実践への活用について理解する。                      8. 健康教育の演習をとおして、効果的な健康教育の展開方法を体験する。</p>			
回数	授業内容			担当者
第1回	1. 健康教育の考え方			
第2回	1) 健康教育の定義			
第3回	2) 健康教育の目的			
第4回	2. 患者教育の考え方			
第5回	1) 患者教育とは			
第6回	2) 患者教育の特徴			
第7回	3. 保健行動			
第8回	1) 保健行動の分類			
第9回	2) 保健行動への変容			
第10回	4. 健康行動理論の活用			
第11回	5. 患者指導の実際			
第12回	1) 指導の効果を最大限に高める方法			
第13回	2) 学習のニーズのアセスメント			
第14回	3) 指導の形態			
第15回	4) 対象に合わせた指導計画			
第16回	5) 指導の評価			
第17回	6) 健康教育の方法と媒体			
第18回	6. 健康教育の実際 個別の健康教育の実際（個別指導）			
第19回	7. 認定試験（45分）			
関連科目	関連科目：成人援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、地域・在宅健康維持論			
テキスト	最新保健学講座 別巻1 健康教育論 メヂカルフレンド社			
参考図書	松本千明著：医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎			
評価方法	筆記試験：50%、プレゼンテーション・受講態度等：50%			

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期	
専門	健康障害援助論	1	30	1年次 ・ 2学期	
担当講師	専任教員 (病院での看護経験あり)				
授業概要	健康障害をもつ対象を理解し、その状態に応じた看護のあり方や支援方法を学ぶ。				
授業目標	1. 各健康レベルにおける患者の理解と看護の特徴を学ぶ。 2. 治療を受ける患者および疾患、治療に伴う症状を示す患者の看護を学ぶ。				
回数	授業内容	担当者			
第1回	1. 健康段階別援助 1) 健康障害のレベルとしての経過とは 2) 急性期にある患者の看護 (1) 急性期の治療の特徴 (2) 急性期にある患者・家族への援助 3) 救急治療と看護 (1) 救急治療を必要とする患者・家族の特徴 (2) 救急治療を受ける患者・家族への援助 (3) 救急蘇生法 4) リハビリテーションと看護 5) 慢性期にある患者の看護 (1) 慢性期の疾患・治療の特徴 (2) 慢性期にある患者・家族への援助 6) 終末期にある患者の看護 (1) 終末期医療の特徴 (2) 終末期にある患者・家族への援助 (3) 臨終時の看護、死後のケア 2. 症状別・治療別援助 1) 疾患、症状、治療・処置を関連づける意味 2) 主な治療 (手術・化学療法・放射線療法) をうける患者の看護 3) 疾患、治療に伴う制限、制約等に関連する主な症状と看護 (1) 呼吸困難 (2) 循環障害 (3) 痛み (4) 悪心・嘔吐 (5) 便秘 3. 認定試験・まとめ	第1回 ～9回			
第2回 ～3回					
第4回 第5回					
第6回 ～7回					
第8回 ～9回					
第10回 ～14回		第10回 ～14回			
第15回		第15回			
自己学習 関連科目		前期科目の解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・症候治療論Ⅰ、看護学概論Ⅰの知識が土台となります。 教科書及び関連科目の該当範囲を予習・復習して講義に臨んでください。 関連科目：病理学概論・症候治療論Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・成人・老年・母性・小児看護学概論・地域・在宅看護対象論			
テキスト		系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 医学書院 新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座別巻 臨床放射線医学 医学書院 *必要時指示します			
参考図書		川島みどり他 経過別看護 (メヂカルフレンド社) 高木永子 看護過程に沿った対症看護 - 病態生理と看護のポイント - (学研)			
評価方法		筆記試験及びレポート課題等：(1～9回 75%、10～14回：25%)			
備考		DVDなどを活用し、臨床イメージを高めながら学習する。			